

兵庫県保険医協会

但馬支部ニュース

No.173

2024年1月25日発行

発行 兵庫県保険医協会但馬支部
連絡先 〒669-5346 豊岡市日高町伊府660
谷垣医院 TEL/079-644-0010 FAX/079-644-0706

2024年 新年のごあいさつ



豊岡市の高齢者 入院事情を考える

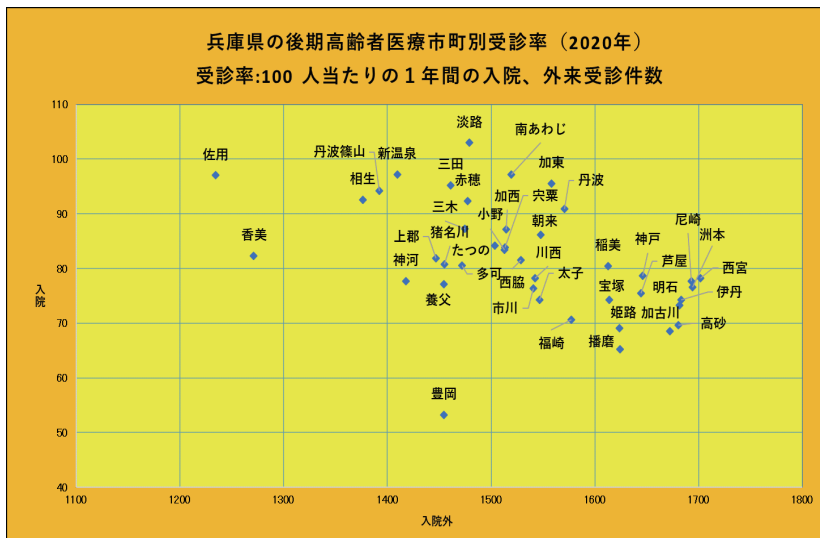


支部長 谷垣 正人

新年おめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新年早々ですが、昨年、公立豊岡病院組合から日高医療センターを病院から19床の有床診療所にする案が病院組合議会に提出され、いま議論されています。豊岡市には民間医療機関のベッドは少ないので、日高医療センターのベッドが減らされるとさらに入院が困難になります。そこで、最近の兵庫県内の後期高齢者医療の受診率を調べてみました。

図は、2020年度の兵庫県の全41市町別の後期高齢者の受診率で、横軸が外来、縦軸が入院の受診率です。受診率とは、後期高齢者100人当たり、年間何件入院または外来受診するかを示した数値です。右下に阪神間や姫路の大きな都市が、左上に但馬や丹波、淡路の市町がプロッ



出典：「令和2年度 兵庫の医療保険 統計表 令和2年度兵庫の後期高齢者医療（データ）第5表市町別診療諸比率」
(<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf07/r02hyogo-iryohoken.html>)

（2面へ続く）

（1面から続く）

トされ、全体として逆相関関係（外来受診率が高い市町は入院受診率が低く、外来受診率が低い市町は入院受診率が高い関係）になります。この図の中で豊岡市がどこに位置するかを見ると、全体の集団からかなり離れ、外来は県平均より少し低いだけですが、入院は断トツで最下位です。豊岡市の高齢者の入院受診率は、県平均や近隣の養父市や朝来市のほぼ2/3と極めて低く、豊岡市の高齢者は、県下でいちばん、しかも2位以下を大きく引き離して入院が少なくなっています。

私たち開業医が入院の必要があるとして紹介した患者さんも、なかなか入院できず、また入院できてすぐ、「次の患者さんが待っているから」と退院させられたり、転院先を見つけるよう迫られます。医師会などでも、とくに豊岡市以外から来られた医師からしばしば、「豊岡病院の入院の敷居は高い」と話題になります。また、豊岡市で入院できずどうしても困った患者さんは、丹波市や京丹後市などの病院に入院せざるをえません。丹波市のある病院では、「入院患者の7割は但馬から」と聞いたことがあります。地元で入院できず遠くの病院に入院している患者さんが、但馬や豊岡市にそれほど多いということでしょう。

さらにもうひとつ、数年前神戸新聞に、「豊岡市の在宅死亡の割合は全国の中大都市の中でいちばん高い」と大々的に報道されました。豊岡市の在宅医療は進んでいるという内容の記事でしたが、本当にそうでしょうか。豊岡市の高齢者がターミナル期でも入院しにくいなら、在宅死が多いことも説明がつきます。このように、豊岡市の高齢者の入院が少ないということが、これまで言われていた多くのことに関連しています。

ではどうすべきでしょうか。高齢者の入院の敷居を、少なくとも県平均並みに下げるべきです。豊岡病院が重症・急性期疾患の病院とするなら、日高、出石の両医療センターを慢性疾患の病院にし、豊岡病院からも必要な医師を派遣して、慢性疾患の入院需要に応えるべきです。「そんな医師の余裕はない」と言われるかもしれませんが、最初に示した図を見ると、豊岡市より医師数の少ない市町も含めて他のすべての市町で豊岡市より高い高齢者入院受診率を達成しており、医師の少なさを理由にはできないと思います。

ところが現在提出されている病院組合の案は、日高医療センターを病院から診療所に変更してベッドを減らすことで、いまでも県下最低の高齢者の入院率をさらに下げるものです。近い将来、国保税を県全体で統一する計画があるそうです。このままでは豊岡市の高齢者は、県下でいちばん入院できないにもかかわらず、国保税は県下一律で払うことを強いられる可能性もあります。今回の日高医療センター整備計画見直し案の再考を強く求めます。

第37回支部総会記念講演・感想文

マイナ不人気 根幹は国への不信感

朝来市・はるかぜ診療所 黒瀬 博計

但馬支部は、12月2日に豊岡市内で第37回支部総会を開催。総会議事で2023年度活動方針を採択したほか、新幹事4人を含む2023年度支部役員を選出した。また、協会理事長の西山裕康先生が「保険証廃止とマイナ保険証義務化の問題点」と題し記念講演。会員・市民ら17人（来場11人/ZOOM6人）が参加した。黒瀬博計先生の感想を紹介する（4面に関連記事）。

当院でも本年4月よりオンライン資格確認を導入したが、カードリーダーとPCとの接続不良、読み取りエラー、PC自動ログオフ後の再起動のタイムロスなど、事務職の手を煩わせているだけで何も恩恵は感じない。

コロナ禍で保健・行政サービスが円滑に提供できず、台湾や他国に後れを取っている現状を目の当たりにした日本であった。しかし、デジタル敗戦は、保険サービスのためのカード

が交付されていたかどうかだけの問題ではない。そもそも日本はICTについては、ハードとしての設備や装置はともかく、それを利用する行政サービス、市民のレベルが低く、デジタル音痴だからである。業務中のPCエラーやトラブルが生じると、思考や行動までフリーズする職員はどの企業や自治体でも一定数存在するものと思われる。

問題山積みのマイナ保険証であるが、根幹にあるのは国の情報管理に対する不信感である。2015年よりマイナンバー指定が始まったが、カード普及は全く進まなかった。おそらく、2007年の消えた年金問題など、国や公的機関の情報管理に対する不信感が根強かったためである。信頼がないマイナンバーカードに、保険証だけでなく公金受取口座まで登録させるには、マイナポイントというニンジン

（4面へ続く）



17人がマイナ保険証の問題点を学んだ

（3面から続く）

をぶら下げる必要があったのは仕方がないことである。

本講演では、マイナンバーカード事業の利権に集まる魑魅魍魎、資産や様々な情報収集による徴税・社会保障負担増、自己情報コントロール権など、様々な切り口でわかりやすく説明いただいた。

雨が降ったりやんだり、虹が顔を出したりと、但馬の冬らしいぐずついた天気であったが、西山先生のテンポよい語り口の講義を聞いて、頭の中のモヤモヤがスッキリして心地よく帰路に着くことができた。

兵庫県保険医協会但馬支部役員 敬称略・五十音順（2023年12月～2025年12月）

支部長	谷垣 正人（豊岡市）	幹事	野田 昌男（豊岡市）
副支部長	藤井 高雄（豊岡市）		古澤 倫代（美方郡）
幹事	喜井 恭子（新温泉町・歯科）新		山田 真義（美方郡・歯科）
	黒瀬 博計（朝来市）新		由良 徹也（豊岡市・歯科）
	坂本 健一（朝来市）		吉田 仁志（豊岡市）
	鈴村 和大（豊岡市）新	顧問	谷 尚（養父市）
	千葉 義幸（豊岡市）新		

2023年度但馬支部活動方針

- 1、医科・歯科診療報酬改定研究会を開催する。
- 2、紙面づくりを工夫しながら支部ニュースの定期発行を目指す。会員登場コーナー「但馬の息吹」欄のインタビューを行う。
- 3、幹事会へのより多くの会員の参加を模索し、活発化を図る。
- 4、全病院を訪問し、医局での資料配布などの勤務医対策に努める。
- 5、公立病院・医師確保課題や、八鹿病院の分娩停止問題、日高医療センター眼科の豊岡病院移転後の病床問題について注視していく。
- 6、接遇研修会や臨床研究会、他科を知る会など会員ニーズに即した企画を具体化する。

「保険証を残してください」自治体請願運動の報告

〈豊岡市〉

豊岡市議会は12月18日、12月定例会文教民生委員会で、協会但馬支部が提出していた請願「健康保険証の存続を求める意見書を提出すること」（紹介議員は須山泰一、上田伴子、村岡峰男各市議 / とともに日本共産党市議団）に関して審議した。採決の結果、賛成1、反対5で不採択となった。賛成は、日本共産党市議団。反対は、令和とよおかクラブ、豊義会、ひかり。12月26日の本会議でも賛成討論があったが否決された。